

# 海の生き物に親しんで

## 2カ所で 稚魚放流や生態解説イベント

横浜

海の生き物に親しむイベント

が25日、横浜市金沢区内の2カ所で開かれた。参加者は稚魚を放流したり、採取した海の生き物に触れながら生態の説明を聞いたりし、身近な海への理解を深めた。

同区白帆の横浜ベイサイドマリーナで初開催された稚魚放流には、市内在住の親子ら43人が参加。同区主催、同マリーナ共催。

講義では県栽培漁業協会の今井利為専務理事が、時速100キロで泳ぐというバ

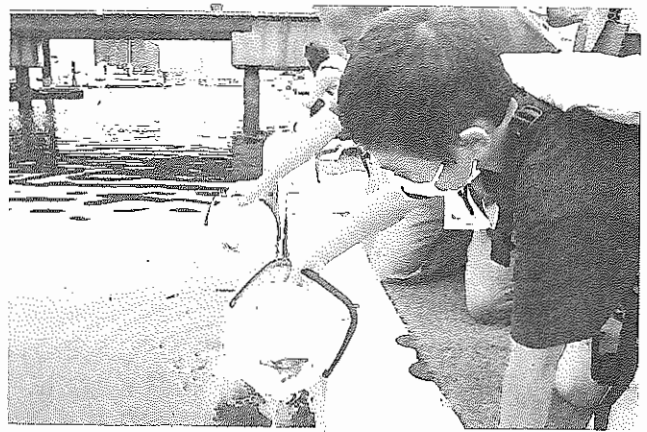
シヨウカジキなどの魚をクイズ形式で紹介。マダイの成長過程や栽培漁業の役割なども説明した。その後、用意されたマダイの稚魚計千匹を放流。参加した田中智康君(8)は「無事に帰ってきてね」とバケツに入った魚を海に放していた。

同区八景島の横浜・八景島シーパラダイスでは環境啓発イベントが開かれ、小中学生15人が参加。市の海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」の一環。

屋外エリア「うみファーム」で魚類飼育員の大谷朋己さん(24)が水中にいるクログイを指さしながら、「この周辺で育った地元の魚。いろいろな生き物が東京湾には暮らしている」と説明。参加した子どもたちは大谷さんが採取したアオサや貝類を触りながら、プランクトンが多いなどという東京湾の特徴を興味深そうに聞いていた。

啓発イベントは26日も午後1時から開かれる。小中学生対象。参加無料で先着15人(事前申し込み不要)。問い合わせは、市温暖化対策統括本部プロジェクト推進課☎045(671)4155。

(吉田 太一)



①稚魚を放流する参加者＝横浜市金沢区  
②東京湾で採取された生き物を見る参加した小中学生ら＝横浜・八景島シーパラダイス